

個人から団体へ

<力を合わせることの強さ>

ラグビーワールドカップ日本大会が10月に行われ、日本は初めてのベスト8進出を成し遂げ大変な人気となりました。その後のインタビューで「One Team」（ワンチーム）という言葉が出てきてとても印象的でした。今年の流行語大賞にも選ばれています。日本の代表が、一人一人の手でボールをつなぎながら必死でトライを目指す姿が感動を誘ったのでしょうか、試合の視聴率もかなり高かったと聞きます。今までなかなか勝てなかったチームに勝利したり、トライの瞬間の映像が何度も流されたりすると、私たちは気持ちが熱くなり、力が入ってしまいますね。

3月までのこの時期、受検を控えた生徒の皆さんはとても大変な時期を過ごします。ある中学校では「受検は団体競技である」と言っているのを聞いたことがあります。早い高校では12月中に入学試験があり、年明けとともに進路が決まる生徒も出てきます。公立高校の後期選抜試験は3月上旬にあるので、後期の試験がある生徒と比べると2カ月近くも試験日に差があります。この2カ月間、受検のために悩み、不安を抱える生徒もいれば、早々進路が決まって4月からの新しい生活に期待を膨らめる生徒もいます。進路が決まっても調子に乗って大騒ぎせず、同じ教室の中で必死に受検に向かおうとしている友だちと互いに支え合い、クラスみんなでこの苦しい受検の時期を乗り切ろうとするものです。試験を受けるのは個人ですが、クラスみんなで乗り越えようとする団体競技と捉えているのです。クラスの団結、一体感、まさに「One Team」になっているかが大切になってきます。ありきたりの言い方ですが、一人の力ではなかなか難しいことも、力を合わせることによって乗り越えられた、こうしたことが私たちの周りにはいくつもあることが分かります。



<11/22 さみずっ子祭り（児童会祭り&焼き芋大会）>

毎年児童会が主催する児童会祭り。昨年から焼き芋大会と一緒にして、児童会中心による全体運営と、1～3年生の焼き芋大会の支えにより児童会祭りを行っています。また今年は4月から重点的に行ってきた縦割り活動を導入し、名称も「さみずっ子祭り」として開催しました。様々な学校でこうした行事が行われていますが、本校は児童会の各委員会の特徴を生かした内容であることが特徴です。

- 代表委員会 → だれが一番大きな声であいさつできるかコンテスト
- 放送委員会 → 早口&実況中継
- 図書委員会 → 題名あて名人はだれだ
- 奉仕委員会 → アルミ缶ツミツミ
- 美化委員会 → みんなで協力ロッカー整理競走
- 健康委員会 → 健康医院会
- 給食委員会 → 豆つかみ大会

楽しむことだけを優先していくと遊び半分になりがちですが、ただ楽しかったで終わることなく、それぞれの活動が学校生活につながり、「学び」のある内容になるよう工夫されています。更に、縦割り班と一緒に活動したり、1～3年生が焼き芋の用意をしたり、全校の児童がそれぞれ役割をもってこの行事に参加しています。児童会の一部の児童に運営してもらって他の児童はただ参加して楽しむ、というような一方的な形ではなく、一人一人が行事に参加しているという意識をもち、それぞれの学年、それぞれの立場の児童が、この行事を成功させようとするものです。



・今日さみずっ子祭りがありました。私は前半の仕事で給食委員会です。委員会では「豆つかみ大会 三水ギネスになろう」というゲームをしました。前半だったけど思ったより人が来てとても大変でした。でも前半が終わると、「もっと委員会の仕事がしたい」と思いました。みんなと一緒に遊ぶことも楽しかったです。来年は5年生なので、4年生の見本になれるようにがんばりたいです。（4年生）



子どもたちの反応はただ「楽しかった」だけでなく、来年度への期待や希望、仕事分担の面白さなどを感じていて、密度の濃い一日となったことが分かります。児童会の皆さん、縦割り班の皆さん、焼き芋大会を準備してくれた皆さん、本当にありがとうございました。

< 11 / 27 飯綱町学習指導研究会（兼 飯綱町学校運営委員会（三校合同）） >

飯綱町の小中学校では学習指導研究会を年2回行っています。これは児童・生徒の学力向上、心身ともに健全な成長を願って、教職員の資質向上と指導力の向上に努め、地域の教育の進展に寄与することを目的とするものです。全学年で授業を公開し、広くご意見をいただきました。またこの日は飯綱町学校運営委員会合同会とも重ねて、3つの学校の学校運営委員に方々にも授業を見ていただき、研究会にも参加していただきました。

3年生は「村の音楽会に向けてオペレッタで自分の思いを表現しよう」という音楽の授業を行いました。授業の中で、児童は自分たちの映像を見て振り返りをする、自分の表現を見てもらってアドバイスをもらう、友だちにアドバイスをする、などしながら、自分の表現はこれでいいのかと考え直していました。研究会では「グループで話し合う時間があつたがその前と後では歌声が全然違い、すごくよくなった」「自分の表現はこれでいいのかを考え直す手立てとなっていた」とのご意見をいただきました。

2年生は、姉妹学年の5年生に美味しいと言ってもらえるきなこにするために、火加減や煎る時間を考えたり味見をしたりしてきなこを作る、という生活科の授業を行いました。ここでは「試行錯誤している姿がよかった」とのご意見をいただきました。友だち同士であーでもない、こーでもない様々な意見を出し合いながら工夫を凝らして、最終的に5年生に喜んでもらえるきなこ作りを行いました。他の学年もそうですが、いずれの授業も個人で追究したりグループで考え合ったりして学びを深める活動でした。そこには励まし合ったり支え合ったりする姿も目立ちました。一人一人がめあてを把握して学び、グループでの話し合いを経て、その後全体の活動へとつながります。その結果生き生きとした児童の活動へとつながっていきました。

この日は特別なことをやったわけではなく、普段の様子をそのまま見ていただきました。そこには、児童の興味関心に基づいた学習があり、教師



も児童もめあてを共有でき、思ったこと感じたことを伝え合い、児童が自分で考えを深めていく、そんな展開になったことを感じることができました。子どもたちの頑張りに拍手を送りたいと思います。ありがとうございました。

<11/29 校内マラソン大会>

今年のマラソン大会で興味深かったのは、「ペース」というキーワードでした。「ペースを守る」「一定のペースで走る」ということを児童が意識できるように進めてきたことです。自分のペースがつかめたら、気持ちよく走り続けること、徐々にスピードを上げていくこと、昨年の自分のタイムを縮めること、などに発展していきます。自分の目標タイムを決めたり、1周毎のラップタイムを決めたりして、普段はそれらを基にして走っていました。ペース配分やラップを意識するために、友だちとペアを組んでペース配分をアドバイスし合ったり、友だち同士で励まし合ったりして学習を進めました。前半飛ばしすぎてバテてしまったり、体力が余ってしまったることがないように、ゴールに向けて見通しをもちながら走ることができました。走っている時にアドバイスをもらえると、ペースを調整してその後の走りに見通しがもてるため、とても有効だったようです。また、友だちに抜かされて「もう無理だ」と諦めると失速することも経験から学び、技能的なことだけでなく気持ちのもち方も学ぶことができました。また、昨年に比べて成長していることは、練習に取り組む姿からも分かります。朝や休み時間に、友だちと誘い合ってマラソンコースを走る子どもたちが増えました。自分の目標を達成するにはどうすればよいかを考えながら走る様子も見られました。

マラソンは個人種目ではありますが、こうした友だちからの誘いや励まし、アドバイス、当日の保護者や家族の応援によって、記録が伸びたり最後までやり遂げたりする様子を見てみると、ここでも団体競技の様子がうかがえます。中には、走り終わった子どもたちが、スピードが出なくなった友だちを励ましながらか一緒に走る様子も見られました。温かい心が育っていることを知り、嬉しくなりました。



- ・自分で自分を「すげえ」と思ったのは、練習ではもう無理と思ってすぐに歩いてしまっていたけど、今日のマラソン大会では、一回も歩かないで走れたし、練習の時のタイムより速くなりました。気持ちや体すべてがマラソンをする体や気持ちになってきて、来年も今日みたいな姿で走りや気持ちを整えていきたいです。(5年生)
- ・練習の時のことや先生のアドバイスなどを思い出しながら走りました。途中で苦しくなったけどあきらめずに完走しました。男子やお母さんたちが応援してくれて嬉しかったです。(4年生)
- ・寒かったけど、4回目より3秒速くゴールできて嬉しかったです。いっぱい練習して、そんなにおなかが痛くならなくなったから、歩かないで走れて良かったです。(3年生)

マラソン大会は終了しましたが、走ることはこれで終わるわけではありません。様々なスポーツに取り組んだり、体を鍛えたりするために、走ることは基本になります。今回ペースのことや自分の気持ちを整えることなどを学ぶことができたことは、今後の生活に必ずプラスに働くことでしょう。

寒い中、早朝より応援に来てくださった保護者の皆様、家族の皆様、ありがとうございました。

